Ｂグループ　グループワーク

１．事例

伝達麻酔下の手術中、しきりに話をしてしまい、医師に注意を受けてしまったＢさん。

２．気になるところ・もやもやしたところ

・医師：「うるさいから会話しないで」に対して言葉の前にアクションは出せなかったのか
・看護師：医師が気の散っている様子が分かりながらも患者のことを思い会話を続け、医師に注意させてしまった
患者に申し訳ない思いにさせてしまった
外回りの負担が大きい状況だった
・患者の対応→会話以外にも緊張をほぐす方法がなかったのか
・医師への気配り→患者の状況、心理的な部分を医師に伝えられるアクション
・その他外回りの仕事

３．「登場人物の気持ちの推量」（推量：相手の心中をおしはかること）

患者	家族
・不安：手術自体に対して、受傷したのが利き手であること、手術後の今後の生活が分からないことが多い、予期しない受傷での緊急手術 ・医師に怒られてしまったという状況による緊張、ストレス 上記に対してからの多弁 ・看護師に対して申し訳なさ	想像 ・患者が手術室で医療者から受けたことを家族に伝えたとした場合、手術室のイメージや医師への印象が悪くなる可能性が考えられる ・患者の手術が無事に安心して手術が受けられるよう望んでいる ・心配、手術というだけで身構えてしまっている可能性がある
看護師	**医師**
・患者の不安や緊張に寄り添いたい ・医師に心地よく手術を行ってもらいたい ・患者に申し訳ない思いをさせてしまった ・医師に注意をさせてしまった	・４ 件中１件目であり、リズムよく手術を進めていきたい ・自分の仕事を全うしたい→病気を治す 手術時間を短時間に侵襲を少なく提供したい（患者に善行な倫理的な考え）

４．倫理的問題と課題

倫理的問題	その問題に対しどう行動すればよかったか
・医師の早く安全に手術を終わらせたいという思い（善行・無危害）と看護師の患者の思いに寄り添いたいという思い（無危害・自律・ケアの倫理）の対立 医師の伝え方の工夫があったのではないか	・患者の気持ちを代弁し、医師に患者が緊張していることで多弁になっていることを伝える。 ・医師が、手術中気が散っていることに気づいた時点でも、医師に声掛けして理解してもらえるよう対応する。（看護師として気づきの力が大事） ・患者にも「今大事なところやっていますので」など医師が集中したいことを患者にも伝える。 →看護師は患者と医師の仲介役、中間的な立場で外回りの役割を果たしていく ・患者には、手術を受ける前に手術の流れや手術中は状況によって近くに居られないことを伝え、理解をしてもらい手術が安心して受けられるよう対応する（できる限り多弁にならないような状態に持っていける関わりをもつ） ・手術後は患者に気持ちのフォローにも努める（申し訳なさを持たないように）

コメント

今回の研修に参加していただきありがとうございます。グループワークでは、個々での考え方を聞かせていただき、自分では考えられなかった部分への発見、気づきにもなり、とても有意義な時間であり、ありがとうございます。
看護師は患者の代弁者であり、医師の代弁者もつとめ、両者の仲介者になり、手術を受ける患者に安心、安全な手術が提供していけるように心がけて関わりを持つことが重要であることを今回の話し合いで再確認ができたと思います。
倫理は難しいという壁があると思いますが、普段の手術室の場面でも、もやもやっと思うことや、自分の関わりがどうだったんだろうと悩むことがあるとおもいます、そういった際に、自分以外の考えを聞くことで、新たな気づきや正しかったんだなって思えることもあると思います。自施設でも、倫理カンファレンスが行える取り組みにつながればと思っています。担当：関